

2025 年 11 月 5 日  
セイコーエプソン株式会社

2025 年度 第 2 四半期決算説明会  
主な質疑応答

●全社

Q： Q2 の事業利益は、社内計画に対してどの程度上回ったのか。

A： 為替影響を含め、30 億円以上の上振れとなった。

Q： Q2 の事業利益が前年同期に対して減益となった要因は何か。

A： 減益となったのはプリンティングソリューションズとビジュアルコミュニケーション。プリンティングソリューションズでは、米国関税コストの増加、欧州などにおける SOHO・ホーム IJP 本体の価格対応があった。前年同期は在庫増に伴う利益影響が大きい。なお、オフィス・ホームプリンティングは社内計画は上回った。

ビジュアルコミュニケーションでは前年同期に対してプロジェクターの販売が減少した。

Q： Q2 および上期の米国関税コストはどの程度あったか。通期業績予想における米国関税コスト 260 億円は、現時点で想定しうる最大限の金額と理解してよいか。

A： 正確な算出は困難だが、概算では Q2 に 30 億円強、上期に約 50 億円のコスト影響があった。年間 260 億円は最大限に見積もった試算となる。

Q： 上期の営業キャッシュフローは 242 億円だが、通期予想 1,200 億円は達成できるのか。

A： 下期に商戦期があり、利益は積み上がっていく。また、上期は在庫が増加したが、下期には販売が進むにつれて減少する予定であり、営業キャッシュフローは改善することを見込んでいる。

以上